

# ア！安全・快適街づくりニュース

「ア！安全・快適街づくり」

## 特定非営利活動法人(NPO)として正式発足 東京東部の低地帯を安全快適な東京一番の地域に

「ア！安全・快適街づくり」は、02年5月10日設立総会を開催し、定款の承認、事業計画・予算の承認、役員を選任等を行ないました。

これに基づき5月13日、NPOの設立認証を都知事に申請、8月30日に設立認証がありました。9月13日に登記、9月20日に設立登記完了届を行い、NPOとして正式発足しました。

### 本年5月に設立総会開催 ア！安全快適街づくりに多彩な顔ぶれ参加 理事長に石川金治氏 副理事長に徳倉眞治氏

設立総会は、5月10日、43人が発起人となり西新小岩の大成化工(株)で開催されました。

発起人は、行政経験者、大学教授、建築家、コンサルタント、会社経営者など多彩な顔ぶれで、都市計画、みどり、河川、街づくり、建設工事、金融等多岐の専門分野に涉っています。(役員名簿P.6)

組織の発足の経緯と設立趣旨の説明、定款、事業計画・予算、役員選任の提案があり、理事長に石川金治氏、副理事長に徳倉眞治氏が選任されるなど、満場一致で承認されました。(役員名簿 P.6)

引き続き行なわれた懇親会には、国土交通省、東京都、葛飾区、江戸川区から、街づくりや河川事業などの部門のトップが揃い、また地元からは、東京商工会議所葛飾支部を初め多くの方が参加しました。

官公庁からは、都建設局道路監、国土交通省荒川下流工事事務所沿川再開発課長、地元からは東京商工会議所葛飾支部長の励ましの挨拶がありました。



設立総会

#### 設立趣意書(要約)

河川沿いの地域の地盤を高く盛土するスーパー堤防建設事業は、同時に、その地域において区画整理や再開発などの面整備を実施する必要がある。面整備事業に対しては、関係住民に様々な意見があり、それらの意見を集約し、可能な限り整備計画に盛り込まなければ、事業は実現しない。

様々な意見を集約するためには、地域住民、行政関係者、学識経験者が、互いに率直に議論する場が必要であるが、行政側のみに議論の場を設ける責任を負わせることは出来ない。住民も行政側も共に責任を負う覚悟が必要である。

この地域が「安全で、水と緑とやすらぎのある東京一番の街」になることを願って、新しい街づくりに関する手法の研究、提言、啓発、支援、指導及び助言などを行なう。

## よこがお

### 石川 金治さん

大学卒業後すぐ都庁に入り、建設局河川部課長補佐時代にスーパー堤防構想を提案しました。その後、江東治水事務所長、河川部長、道路建設部長、都技監兼建設局長、公園協会、駐車場公社の理事長を歴任し、昨年7月駐車場公社理事長を退任しました。

### 徳倉 眞治さん

大学卒業後三菱商事に入社し、昭和39年に28歳の時、大成化工立て直しのため移って来ました。以後この地を拠点として事業を展開しながら、地域の街づくりに関心を持ってきました。大成化工(株)代表取締役社長

**特定非営利活動法人  
「ア！安全・快適街づくり」定款**

**平成14年度  
予 算**

定款は、10章、60条からなっています。

総則、会員、役員、会議、資産、会計、定款の変更・解散・合併、広告の方法、事務局、雑則の章があります。

会員は、正会員、知恵を出す特別会員及び資金支援の賛助会員の3種を定めています。

総会は、正会員をもって構成し、毎年通常総会を開催します。事務局は「大成化工株式会社」

(葛飾区西新小岩三丁目)に置いています。

**定 款 (抜粋)**

(目的)

第3条 この法人は、東京東部の荒川と江戸川の間の水に囲まれた低地帯(以下「荒川以東の低地帯」という)を水害から守るために河川管理者が行なうスーパー堤防事業を契機に、この地域が「安全で、水と緑とやすらぎのある東京一番の街」になることを願って新しい街づくり(以下「BankTown建設」という)に関する手法の研究、提言、啓発、支援、指導及び助言などを行なうことを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 街づくりの推進を図る活動
- (2) 前号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言、又は援助の活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として次の事業を行なう。

- (1) スーパー堤防事業に関する資料収集及び行政が行なう広報活動の支援
- (2) BankTown建設手法の研究
- (3) BankTownに関する情報の収集及び地域住民への提供
- (4) 上記に対する住民の意見の集約
- (5) BankTownの建設手法の提言
- (6) スーパー堤防事業及びBankTown建設事業の建設促進等の要望活動
- (7) 事業の専門的事項に関する研究及び講習会の開催

収入は114万円を予定し、会費及び寄付金を当てにしております。支出は、事業費として55万円、管理費として35万円、予備費10万円、繰越14万円、計114万円を予定しております

財源が乏しいのとNPOの思想から、交通費、通信費、印刷費等個人又は団体で負担可能なものは負担していただくことにしております。

**予 算 書**

科 目	金 額 (円)
<b>I. 収入の部</b>	
1. 入会金及び会費収入	
・正会員入会金	0
・正会員会費	40,000
2. 事業収入	0
3. 補助金等収入	0
4. 寄付金収入	1,100,000
5. 雑収入	0
当期収入合計(A)	1,140,000
収入合計 (B)	1,140,000
<b>II. 支出の部</b>	
1. 事業費	
・情報収集	200,000
・地図作成	100,000
・手法研究	50,000
・地区選定	50,000
・会報誌	150,000
事業費合計	550,000
2. 管理費	
・通信費	60,000
・会議費	60,000
・旅費交通費	60,000
・消耗品費	50,000
・印刷製本費	50,000
・水道光熱費	20,000
・雑費	50,000
管理費合計	350,000
3. 予備費	100,000
当期支出合計(C)	1,000,000
当期収支差額(A) - (C)	140,000
次期繰越収支差額(B) - (C)	140,000

## 石川理事長にきく

- (編集) どういう動機で、このNPOの設立を思い立ったのですか。
- (石川) 荒川・中川は、天井川となっていて、大震災が発生すると、荒川・中川の堤防が切れる心配があります。いったん水が市街地に流入すると、広範囲にわたり、長期間冠水する恐れがあります。
- 徳倉さんと私は高校時代での同期生ですが、17歳の時でした。昭和28年、愛知県一色町で台風13号による大水害を体験しました。
- 一万人程の町でしたが、死者16名、流出・全壊家屋441戸という被害を受け、水害の恐ろしさを二人は思い知らされました。その影響でしょうか、私は、東京都で一貫して低地帯の防災対策、とりわけ「スーパー堤防」に関心を持っていました。
- 公職を離れたのを機会に、全く手が付けられていない荒川以東のスーパー堤防の整備にボランティアとしてお役に立ちたいと思っていたのです。
- 徳倉さんは、長年この地域で事業をやってくられ、東京駅から15分で、水辺環境にめぐまれたこの地域を他にない安全で快適な素晴らしい街にしたい、という思いを持っておられました。
- 徳倉さんと昨年11月に話し合い、スーパー堤防と一体的に街づくりを進め、安全で快適な東京一番の街づくりを目指して頑張ってみようということになったのです。
- (編集) スーパー堤防は、街づくりとどういう関係があるのですか。
- (石川) スーパー堤防は、民地側を1街区位盛土して幅が200から300mの広い堤防にするのです。その盛土工事をするためには、1ha位更地にする必要があります。この時が街づくりのチャンスになります。
- (編集) 隅田川は、スーパー堤防との一体的な街づくりがかなり進んでいますが、荒川・中川が全く手がついていないのは何故ですか。
- (石川) 解決すべき問題が山積しているからです。危機感が乏しく、課題に取り組む仕組みが出来ていません。問題解決の責任を行政側にのみ負わせているのでは、何時までたっても進みません。住民も参加して解決策を考える時代です。その橋渡しをNPOでやりたいというわけです。
- (編集) 問題が山積しているといわれましたが、例えばどんな事ですか。
- (石川) 荒川以東では、土地利用計画が戸建向きになっています。現況も、それに従って戸建住宅が連担しているのので、街づくりの機運が起こりにくいわけです。
- (編集) この中川沿いのところも戸建向きの土地利用計画ですから、街づくり計画など立てようがないということになりませんか。
- (石川) 都市再生特別措置法の「特別区」に指定された所では、住みよい街に向けて、地元の人達が都市計画案を提出出来る様になりました。
- 水辺環境に恵まれ、都心に近いこの地域は都市再生特別措置法の対象になりうるポテンシャルを持っていますから、地元の熱意とこれを形にする仕組みがあれば、計画の見直しは可能と考えています。
- (編集) 危機感が足りないのは、河川改修や下水道の整備が進んだ結果、浸水騒ぎがないことも原因ではないですか。
- (石川) それもありますね。20年前は、ちょっとした夕立でも道路冠水の被害が出ましたが、今は雨が降っても、長靴にしようかと迷うことなく短靴で出かけます。自分たちが水面より下に住んでいることを知らなかったり、知識としては知っているけれども現実感の無い人が殆どでしょうね。
- (編集) 最近は、異常気象による河川氾濫が世界各地で相次いで起こっていますね。
- (石川) 自然は人智を超えるものだということを忘れてはいけません。その時の怖さをPRして、いざという時の対応策を考える手助けも大きな仕事だと思います。
- (編集) 発起人の顔ぶれは、随分多彩ですね。
- (石川) NPOをやろうと呼びかけたら、1ヶ月もしない中に発起人候補者が40~50人集まりました。この人達のパワーのお陰で随分早く法人を設立することが出来ました。
- (編集) まだ、いろいろ伺いたいことがありますが、次号に譲らせていただきます。インタビューにご協力ありがとうございました。

## 勉強会スタート

本年5月に発足した当法人は、安全快適な街づくりに1日も早く取り組みを開始するために、早速勉強会を開始しました。

勉強会は、屋外で行なうものと、屋内で行なうものとに分け、屋外では、現地調査や現場視察を随時行ない、屋内では街づくり勉強会を定期的に開くこととしています。

### 「荒川スーパー堤防」

屋外での第1回勉強会は、6月25日、江戸川区平井七丁目先の「荒川高規格堤防地盤改良工事の現場で行なわれました。

当日は、梅雨空にもかかわらず30名を越す会員が参加し、現場では国土交通省荒川下流工事事務所や施工会社の方々が出迎えてくれました。

初めに加邊治川再開発課長と登坂小名木川出張所長からスーパー堤防について説明がありました。

スーパー堤防は、計画で想定された量をはるかに超えた降雨であっても、堤防が決壊しない構造です。昭和63年度より荒川他5河川で事業化され、これまでに18kmが完成し、32kmが事業中とのことでした。

この平井七丁目地区は、荒川と旧中川に挟まれ工場と住宅が密集混在する地域でした。

その一角に平成6年、堤防道路に沿ってマンション建築の話が持ち上がりました。

これを機に、荒川下流工事事務所は、平成7年、この地区全体で、スーパー堤防と一体となった街づくりを行なう計画案を地元へ提示し、10年4月に都市計画決定されました。

平成12年には、仮換地指定と仮移転が行われ、平成13年1月には、早くもスーパー堤防工事に着手しました。

このように事業は極めて円滑に進展しましたが、それはこの地域に広い都有地(1.1ha)が更地として確保されており、これを仮住居、仮工場の用地として活用できたことが大きな要因でした。

現場説明のあと、隣接の江東治水事務所木下川排水機場会議室へ移動し、荒川下流工事事務所編集のビデオ「東京大水害」と「平井七丁目地区スーパー堤防と同北部地区区画整理事業」を見ました。

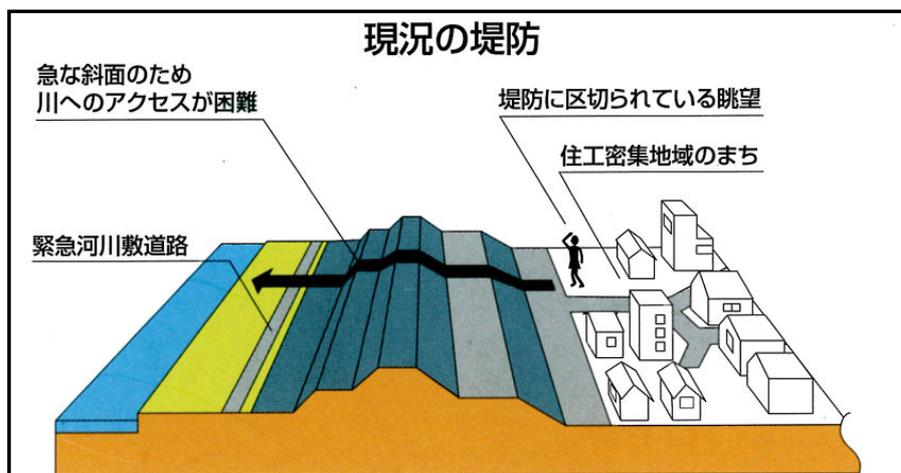
「東京大水害」は、リアルで迫力があり、荒川が破堤した場合の洪水の恐ろしさに、つい引き込まれてしまいました。

次に質疑応答となり、荒川に沿って流れる中川左岸堤防と荒川右岸堤防との違いや、スーパー堤防の構造上、施工上の問題点、又堤防道路の扱いや都市再生事業への組み入れの可能性、更に本地区のケースが他へも適用出来るのか、スーパー堤防が線としてつながるまでに必要な期間と費用等多岐にわたり質疑が続きました。

午後4時終了の予定でしたが、活発な意見交換で大分伸びてしまいました。

屋外での第1回勉強会は、非常に有意義でした。

(増沢 一朗



## 「スーパー堤防と街づくり」

この勉強会は、東京都都市計画局、建設局、葛飾区、本NPO等の専門家て構成（座長成戸寿彦元都技監・都市計画局長）されています。

荒川と江戸川に囲まれた葛飾区西新小岩地域をモデルとして、低地帯における木造密集地域の解消や地震水害の未然防止をはかるスーパー堤防の整備等新しい街づくりの方策、事業手法財源の裏付け等について調査研究を進めます。

これら一連の成果を取りまとめ、既成市街地の再生に向けて国、都等の関係機関や地域の方々に提案する等、事業化の橋渡しをしたいと考えております。

### 第1回勉強会（7月3日）

勉強会の目的、構成の確認、座長の選出、スーパー堤防の意義、事業の現状の説明等を行いました。

調査研究の対象となるモデル地区としては

- ①木造密集地域を中心とするケース
- ②木造密集地域に加え、大規模工場跡地を含むケースの二通りが検討された結果、②として葛飾区西新小岩三丁目大成化工が選定されました。

### 第2回勉強会（7月26日）

スーパー堤防など街づくりの事例や都市再生に適用可能な事業手法等について論議しました

### 第3回勉強会（9月6日）

「スーパー堤防の現況と課題」と題して、リバーフロント整備センターの井山 聡さんに講演をいただきました。その骨子は次の通りです。

講演内容を詳しく知りたい方は、事務局に資料をご請求ください。

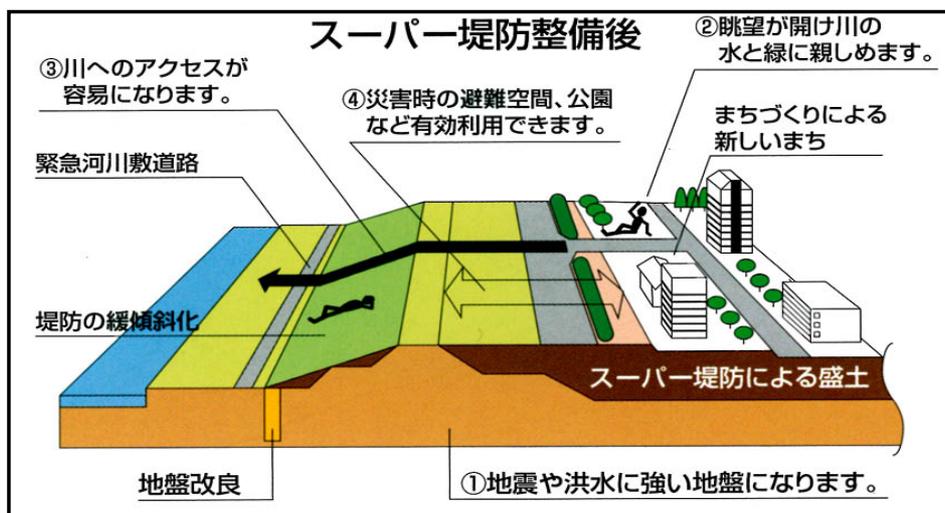
〔スーパー堤防の現況について〕

- 利根川、荒川等全体延長約800kmのうち約15kmが完成、約47kmが事業化している
- 川沿いの工場跡地のマンション化が進み、堤防整備と同時施工の例が多い。都市計画法等法的拘束力が無く折角の機会を逃した例がある
- これまで堤防整備を普遍化するため、モデル的に事業を展開してきた。今後は、治水面から重要な区間を明示し、効率的、重点的に取り組む必要がある。

〔スーパー堤防の課題について〕

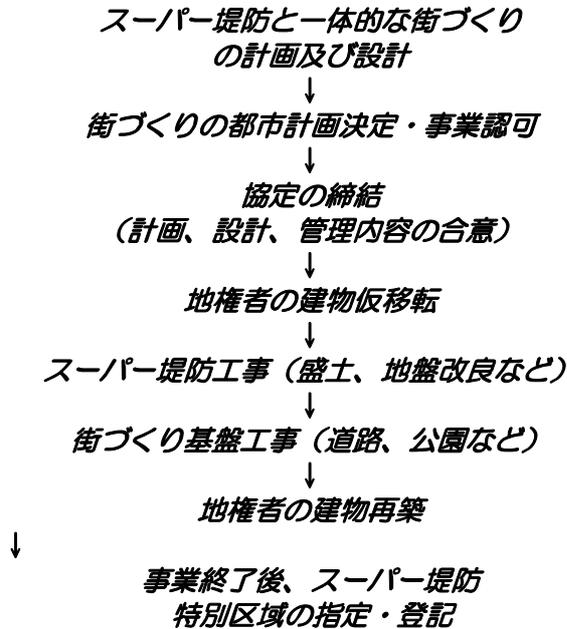
- 市街地整備サイドからの規制・誘導策が無い今後沿川の開発計画を策定し、地域の権利者を含めた堤防整備を誘導する組織的体系的なシステムづくりが課題。
- 財政の制約等から分散投資を余儀なくされているが、危険度の高い地域を対象に、関係住民の意見を反映し、計画的集中的に事業を推進する必要がある。
- 河川管理者の主体的な事業展開のための仕組み作り。
- 土地区画整理、都市再開発等とスーパー堤防整備事業を組み合わせ、重点区間を明示し、規制・誘導を図る。

（仲田 勝彦）



荒川下流工事事務所作成パンフレットより引用

## スーパー堤防事業の流れ



### 用語説明

#### 特定非営利活動法人(NPO)

民法第34条の規定による公益法人とは異なります。特別法として平成10年12月1日に施行されたNPO(特定非営利活動促進法)により成立しており、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的としています。

営利を目的とせず、社員(正会員)の資格の得喪について不当な条件をつけないこと、簡単に言えば、会員は出入り自由の法人です。

行政がカバーしきれないきめ細かい住民ニーズに対応するため、様々な分野で活動している民間の非営利団体に法人格を与え、外部との契約などの法律行為を円滑に行なえるようにするのが狙いです。

保険・医療・福祉の増進など、法人格が与えられる12活動分野の一つとして「まちづくりの推進」が挙げられています。

### —役員・評議員の顔ぶれ—

理事長	石川 金治	元東京都技監・建設局長
副理事長	徳倉 眞治	大成化工(株)代表取締役社長
[理事]	飯田 時章	元富士銀行取締役、帝国繊維社長
	磯村 辰彦	建設技術研究所部長
	佐藤 滋	早稲田大学理工学部教授
	成戸 寿彦	元東京都技監・都市計画局長
		帝都高速度交通営団理事
	沼尻 敦	元都建設局道路監
	松川 淳子	生活構造研究所長
	松田 芳夫	元建設省河川局長、リバーフロント整備センター理事長
	樋渡 達也	元都公園緑地部長、文化財指定庭園保護協議会会長
[監事]	宇賀 俊夫	元東レ理事
	鈴木 六男	元都建設局区画整理部長 東京土地区画整理協会理事長
[評議員]	井出 幸子	RIA東京支社設計第二部長
	大方潤一郎	東京大学教授
	小川 信子	日本女子大学名誉教授 北海道浅井学園大学教授
	勝部 弘	元運輸省第五港湾建設局長 みらい建設工業常任顧問
	神戸 俊雄	元都区画整理部長
	小泉 秀樹	東京大学助教授
	進士五十八	東京農業大学学長
	高見 憲一	元都港湾局技監、都防災建築街づくりセンター理事長
	竹内 直佐	都第三建設事務所長
	沼田 明	元都衛生局長、大木建設顧問
	正宗 量子	正宗一級建築士事務所長
	増沢 一朗	元江東治水事務所長、鉄建建設技術部長

# スーパー堤防構想は 自然再生への第一歩

山本 保博

四十二、三年も前のことである。私はK高校で学んでいた。高校一年の文化祭がきっかけで、医者になろうと決心した時の話である。その文化祭では、私が所属していた「博物部」が一年がかりで準備した企画の発表があった。その企画とは、「21世紀の食糧危機に備えて、我々がまだ食べた経験はないが美味しく食べられるものを見つけようではないか」というものだった。

私たちは、昆虫班、動物班、植物班などに分かれ、班ごとに全力を尽くして勉強した。私は動物班の一員として不忍池、六義園や小石川植物園など、当時は何処にでもいた食用蛙のオタマジャクシに目をつけた。

大きなものは、尻尾まで10センチもあり、タモ網で1回水をすくえば2匹や3匹は捕れ、バケツ一杯すくうのにそれ程時間はかからなかった。

いざ食するに当って、オタマジャクシの腹から薄く見えている蚊取線香のような丸い腸は、きたないからと取り除き、十分水洗いの後“卵とじ”にしてみた。

口がへの字に曲がるほどドロ臭くてまずかった。ドロ臭さを除くべくゴボウと一緒に“柳川”にしたり、“バター炒め”、“天婦羅”にもしたが駄目だった。一週間、二週間と流水で洗浄しても同じだった。結局その文化祭には、我々は“バター炒め”と“柳川鍋”の二品を出品した。

優勝は「フナムシ」チームだった。彼らも種々試行錯誤の結果、“唐揚げ”に到達した。昭和三十四、五年当時、葛西まで行くと遠浅の澄んだ海が広がっていた。荒川や江戸川が東京湾に注ぎ込み、栄養分の豊富な海岸だった。

フナムシも無数に隊列を作って走り回っていた。アジやイワシの頭をその辺に置くと黒山のように集まってきた。四手網をその黒山の上に置くことで一網打尽にしたそうである。

それにエーテルスプレーをかけて麻痺し、ビニール袋に入れて学校へ持って帰った。

“フナムシの唐揚げ”は、香ばしく、子豚の皮のようにカリカリして美味だった。しかし、どの足の関節にも下向きのトゲが付いており、食べ終わると口の中は、血だらけになってしまった。

◇ ◇

いずれにしても当時の東京の池や海には自然が十分残っていた。荒川では泳ぎに疲れて川岸の穴に手を入れれば、ハゼを素手で捕ることが出来た。

今日、大気汚染、水質汚染、山や土地の荒廃などの環境破壊に打つ手が無いと思いつく運命論的発想は簡単だが、私は誰にでも出来る足元からのボランティア的活動に力を注いだら、再生は可能であると考えている。

我々の住んでいるこの葛飾区におけるより豊富な自然の回復への鍵は、中川、荒川、江戸川等の河川にあるだろう。まず問題となるのは、中川に張り巡らされているコンクリートの堤防だが、人間だけでなく水生生物にとっても牢獄に違いない。

河川の堤防は、洪水対策のみでなく、環境対策の一環として考えることが重要で、そこに我々市民のボランティアとしての活躍が期待される。自然のアシやヨシで蔽われた川岸が出来れば、水生生物のみでなく、人間にとっても楽しい再生といえるだろう。私はこのスーパー堤防構想は、自然再生への第一歩として捉え、市民の1人として活動して行きたいと考えている。

## 山本 保博（やまもとやすひろ）さん

1942年生れ

日本医科大学大学院医科研究科修了  
現在、日本医科大学救急医学科教授  
葛飾区西新小岩五丁目に在住

著書

「救急医、世界の現場へ」、「災害医療ガイド」、  
「災害医学」、「救命救急士標準テキスト」、  
「標準救急医学」その他



## —お知らせ—

シンポジウム

### “21世紀の東京の河川、 NPOとの連携のあり方 を考える”

パネリストに石川理事長・増沢氏

首都東京の再生に向けて東京都は、今後の東京の河川について、都民とともに考え、築いていく契機とするため、6月から展示会、見学会、記念植物樹など様々な催しを行っています。

これら一連の催し物の締めくくりとして、今後の河川行政にとり重要な課題である地域住民やNPO法人等との連携の強化を図るため、シンポジウムが開催されます。

シンポジウムの第1部は、NPO法人等の意見発表、第2部は、パネルディスカッションで構成され、当NPOも他の4法人とともに参加することになりました。

第1部では、増沢一朗氏、第2部では石川金治理事長がパネリストとして参加します。

日時：14年11月1日（金）14:00～17:00

場所：東京都庁 都民ホール

問い合わせ先：

東京都建設局河川部管理課事務係

電話 03-5320-5402

同 計画課企画係

電話 03-5320-5411

### 街づくりボランティアを やってみませんか

特定非営利活動法人「ア！安全・快適街づくり」は、この会の趣旨に賛同される方のご参加を歓迎し期待しております。

会員には、正会員、特別会員、賛助会員の3種があり、個人でも団体でも参加できます。

問合せ先 大成化工（株） 福嶋

電話・FAX 03-3696-7480

### 「全国川サミット in江戸川」

当NPOがパネル展示・映画上映

川サミットは、一級河川名を自治体名とする全国の市区町村が集まり、未来に向けての「川と流域との係わり」や「川との共生」を探り、川の素晴らしさを全国に向けて発信していく、年に1回の貴重な交流の場です。

第11回目の今回は、江戸川区が主催し、そのテーマは、「暮らしにとけ込む、にぎわいの川—都市の中の川を考える—」です。

都市の中であって、身近な癒やしの空間である豊かな川や水辺を、かけがえの無い環境資源として、皆さんと一緒に一層利用を進め、交流を深めていくことで、川の大切さ、川の素晴らしさを次の世代に伝えていくこととしています。

当NPOでは、荒川以東の低地帯に住んでおられる住民の方々に、自分たちの住むまちと川との係わりを考えていただくために、パネルの展示やカスリーン台風の記録映画などを上映することにしました。

日時：平成14年10月12日（土）9:30～

場所：江戸川区総合区民ホール2階 太陽の間  
（都営新宿線 船堀駅前）

プログラム：

午前の部 [9:30～]

江戸川を考えるワークショップ

午後の部 [13:00～]

全国川サミットin江戸川

問合せ先

江戸川区土木部計画課（Tel.03-5662-8393）

発行 特定非営利活動法人

「ア！安全・快適街づくり」

〒124-8535

東京都葛飾区西新小岩3丁目5番1号

大成化工株式会社内

Tel・Fax 03-3696-7480

E-Mail banktown@taisei-kako.co.jp